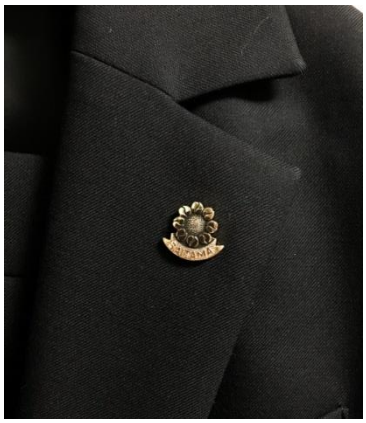
親善大使レポート

跡見学園女子大学
奥山　夏海

【coolangatta beach】

令和元年度埼玉親善大使の奥山夏海と申します。私はオーストラリアのクイーンズランド州ゴールドコーストに３月１日から３月２３日まで約三週間滞在しました。このレポートでは私が書類選考、面接選考を通って親善大使になった経緯から、事前準備、実際留学中に経験した事や感じた事、留学を終えて得たものまでをなるべく分かりやすく写真とともに紹介していきたいと思いますので、最後まで読んでいただけたら幸いです。

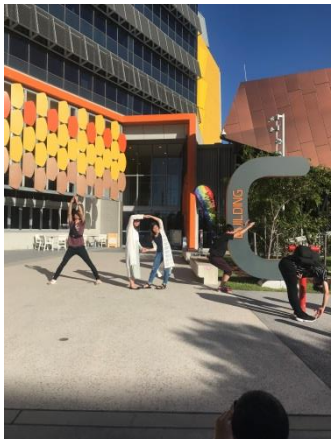
埼玉親善大使になったきっかけは、大学の国際交流課から来ていた一件のメールでした。小さい頃から英語や外国の文化に興味があり、留学を経験してみたいという思いがあったため、私はそのメールに目を止めました。条件を確認すると、東京在住の私でも埼玉県の大学に通っていれば応募できるとのこと、また、自分の通う大学のある埼玉県と約 6,862km 赤道を超えた先にあるオーストラリア大陸の一角クイーンズランド州の架け橋を自分が担えるかもしれないと思うと胸が高鳴りました。そして、最初は何事もチャレンジだ！といった気持ちで必要な書類を準備して埼玉県国際課の方に送りました。英語バージョンの志望動機はネイティブの先生に何度も添削して頂きました。すると、数週間後に書類選考通過の通知と共に面接選考の案内が届きました。ここまで来たら、絶対合格したいと思うようになりました。家族や大学の英語の先生などに面接の練習に付き合ってもらい、ドキドキの面接当日を迎えました。面接では、笑顔と等身大の自分でいることを意識しました。そうして、私は埼玉県親善大使に選んでいただき、オーストラリアに行くことができました。



【埼玉親善大使バッジ】

【パスポートと航空券】

事務的な事前準備は、埼玉県国際課の方が郵送で送ってくれた書類をもとに行いました。パスポートの取得または更新、留学期間の決定、航空券の手配、ホームステイ先の決定、海外旅行保険、ビザの申請、誓約書、緊急連絡先一覧提出、大学入学申請書などがありました。国際課の担当者の方が親身に対応してくださり順調に進めることができました。航空券は値段が上がったり下がったりしますが、私はそれを気にしすぎて結局成田-ゴールドコースト直行便往復券を最初にチェックした価格プラス２万円で購入しました。ホームステイは現地の AHN という団体を使いました。私は、後でも述べますが本当に良いホストファミリーとめぐり合わせて頂きました。AHN のゲストスチューデントエントリーフォームでできる限り分かりやすく自分の趣味や希望、体験したいことなどを書くことをお勧めします。個人的な準備としては、約一か月分の荷物を入れる９５L のスーツケースの手配から、ホームステイ先の方へのお土産、必要な物の買い出し、埼玉県についてもさらに詳しく調べました。



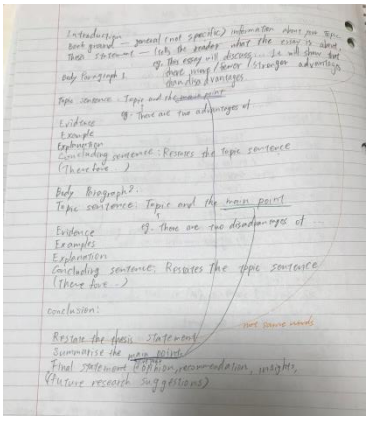
【Ｃbuilding の前で友達と】

【social distance をとっている教室の様子】

【スーツケース】

いよいよ留学中の経験について書いていきたいと思います。まずは、学校について。留学中学ばせて頂いたのは、ゴールドコースト空港の目の前に位置するサザンクロス大学です。今回は埼玉県からの親善大使は５人で、そのうちの４人がたまたま同じ日のスタートでした。埼玉県親善大使４人と他大学からの日本人留学生４人、コロンビアからの留学生１人の計９人でオリエンテーションを受けました。オリエンテーションが終わるとそのまま WRITING のテストが行われました。そして、その日の午後には早速授業がスタートしました。私のクラスは１４人でした。授業の内容は、まず先生方が毎授業用意してくださる様々なトピックを英語でディスカッションをしてから、その日の文法や、ACCDEMICREADING,WRITING の方法に入ります。私が最も向上したと思う技能は意外にも WRITING です。三週間の留学中に ESSAY(200 字～)を６回提出したので、3.5 日に一回は ESSAY を添削して頂いていました。述べる内容は、What is your favorite movie?（あなたの好きな映画は何ですか？） Describe two benefits of playing team sports. （チームスポーツをすることの利点を二つ述べよ。）Describe the data in the two graphs which show the average rainfall and average maximum temperature in two cities.（二つの都市の平均降水量と平均最高気温を表した二つのグラフについて説明してください。）など徐々に ACCDEMIC　ESSAY の書き方を習得できるようなプログラムでした。

また、４週間のプログラムですと毎週 LISTENING,WRITING,READING,SPEAKING（グループプレゼンテーション形式)のいずれかのテストがありました。プレゼンテーションは３、４人のグループに分かれて行いました。準備時間は授業中にも設けられているものの、ほとんどのグループが放課後にも練習していました。午後の授業は毎日楽しみでした。台湾、中国、韓国、ロシア、ブラジルからの留学生たちと合同でディスカッションの時間でした。そのとき初めて英語を話していてもお互いに独特の第一言語によるなまりがあることが分かりました。とても新鮮な経験で驚きと共に一度に多国籍の学生と英語を使って話せたことがすごく楽しかったです。放課後に課題を終わらせるとトランプをしたり、卓球をしたり、ビーチに行ったり、夜のマーケットに出かけたりととても充実していました。



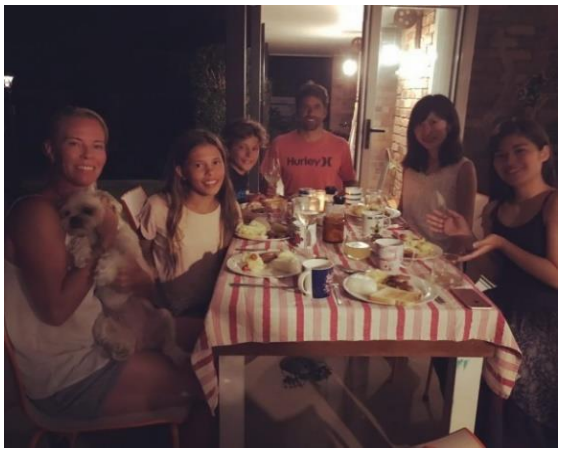
【WRITING の授業ノート】

【Currumbin Farmers Market】

【通学路にて】

次に、ホームステイについてです。今回私を受け入れてくれたご家族は、娘さん（１４）、息子さん（１２）、お父さん（４６）、お母さん（４２）、犬、猫の四人と二匹の家族でした。私は３月１日の現地時間 am７：００に、ゴールドコースト空港に到着しました。そこからホストの家までは AHN の担当の方に車で送っていただきました。ホストファミリーと対面し挨拶をしました。そして部屋の案内をしてもらい、一息つく間もなくホストマザーは、私たちサーフィンしに行くけど NATSUMI も来る？と誘ってくれました。もちろんその日にサーフィンデビューしました。ホストファミリーへのお土産の一つとして草加煎餅を持っていきました。ジャパニーズライスクラッカーと言って大いに喜ばれました。ホストファーザーが醤油味のお煎餅にブルーチーズをのせて食べていたのが印象的でした。私はこのご家族と三週間生活してすごく色々なことを学びました。14 歳と 12 歳の兄弟は毎朝、朝食と学校に持っていくお弁当を自分で作っていました。それ以外にも、毎日のトイレ掃除、芝刈り、食器の片づけなど子供たちも自主的に家事に取り組んでいました。私がホストファーザーにそのことについて尋ねるとこう言っていました。「子供だって家族の一員としてできることがある。子供だから家や食料に対してお金は払うことはできないけど、最低限できることは協力するべきだ。」このご家族は常日頃から話し合いをして個々に家事の役割分担をしてみんなが暮らしやすくするために協力し合っていました。私もこのご家族と生活するうえで何か自分の役割を見つけて参加したいと思い、ホストマザーと一緒に毎晩夕飯を作ることになりました。結果としてそれがすごくよかったなと思います。ホストマザーとキッチンで洋楽を流しながら、今日あったことや、将来のことなど、毎日料理をしながらいろいろなことを語り合いました。ホストマザーは私に、滞在中何度も「If you want to do it, you can do it.」（あなたがそうしたいなら、できるよ。）と言ってくれました。最初は、「明日の朝、海に一緒に行く？」のように、誘ってくれるときによく言っていましたが、将来の話をしたときにもホストマザー

は言ってくれました。「夢や目標を達成するために正しい努力をしていればそれは実現させることができる。」という、南アフリカ出身でフランス人の旦那さんと結婚し、８年かけてオーストラリア国籍を取得したホストマザーの言葉はとても説得力があり、かっこいいなと思いました。自分もそんなことが言えるように行動していきたいと思うきっかけになりました。別れの日は唐突にやってきたのですが「NATSUMI はもう家族だから、いつでも帰ってきてね。また会えるよ。」と言ってホストファミリーが１人１人抱きしめてくれました。このご家族と過ごした三週間はとても濃厚で、また帰ってきたいと思える場所ができました。生涯忘れることができない貴重な体験になりました。



【ホストファミリーと日本食】

【ビーチで親戚の誕生日会】

【ホストブラザーと犬：Engel】

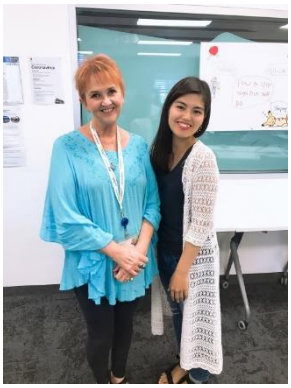
【犬：Ozzie】

埼玉県のＰＲ活動は、現地で知り合った友達、ホストファミリーに事前に配られていた資料と自分で調べた事をもとに埼玉県についてお話ししました。オリンピックの話はとても共感してもらいやすかった印象です。中でも盛り上がったのは、一緒に行った埼玉親善大使の友達が日本から作って持ってきてくれた埼玉に関わる"かるた"です。私の滞在先のホストファミリーに日本食をふるまった後で、かるたをしました。絵が大きく書いてあってホストファミリーも一枚一枚「これは何？」と興味を持って、「日本はずっと行ってみたい国なの」と言って下さいました。これは埼玉をＰＲする手段としてもとても有効だったと思います。

【埼玉にまつわるかるたをしている風景】

【猫：Shadow】

世界的な新型コロナウイルスの蔓延により、すべての授業がオンラインになりました。帰りのフライトがキャンセルになり急遽その日の朝に帰国便の座席を確保して帰る友達もいました。私も２３日の朝、当初の予定から一週間フライトを早めて帰国することを決定しました。２５日から一週間分のプログラムを日本からオンラインでオーストラリアの授業に参加しました。オンライン授業最終日には先生方が、手書きの CERTIFICATION を用意してくださってオンライン上で修了式をしてくださいました。



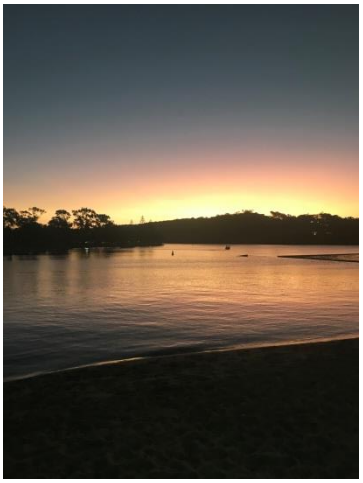
【Southern Cross 大学付属語学学校の先生方と
オンライン授業に切り替わる前日にとったもの】

最後に留学を振り返って思うこと。本当に体験してみないとわからないことがたくさんあるということです。以前の私にとっての留学することとは、大学での勉強がメインで、あとは現地の生活を体験することだと考えていました。しかし、いざ実際に行ってみると、出発前夜の胸の高鳴りから、飛行機の窓から見える朝日、空港を出てすぐ感じる異国の香りと体感温度、すれ違う人や関わる人、クラスメイトの常識・考え方や行動、ホストファミリーの人間性など数えられないほど色々な人・物が私に影響を与えました。自分について、将来についても考えるきっかけになりました。お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えたい、そしてまた会えるいつの日かさらにレベルアップした姿を見せ不自由なくお話しするために、語学を学ぶモチベーションも格段に上がりました。見たこともない大きな空と海、十九歳の春休みをオーストラリアで過ごしたこと、そこで関わった人たちは生涯忘れられない私の財産になりました。最後になりますが、この留学の機会を与えてくださいました、すべての方々に感謝いたします。ありがとうございました。

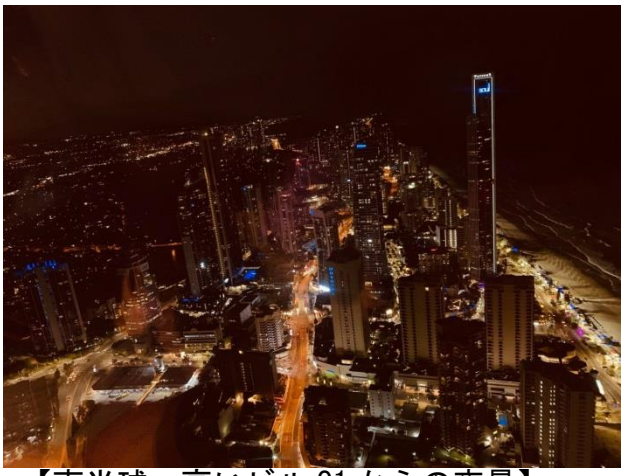
【Green Mount Beach】

【朝、通学路から見えた虹】

【Currumbin Wildlife Sanctuary】



【オーストラリアの夕景】



【南半球一高いビル Q1 からの夜景】

【飛行機の窓から見た朝日】